

出版界に「お縄系セレブ」なるジャンルが存在する。元外務官僚の佐藤優さんや堀江貴文さんらを指した言葉だ。要は、特捜検察に逮捕・起訴され、有罪確定した元刑事被告人でありながら社会的に活躍していること。著者もその一人だ。シロアリ駆除会社「キャッツ」の粉飾決算を主導したとして東京地検特捜部に逮捕・起訴され、2010年5月に有罪確定。「会計と犯罪」は、実体験を基に冤罪を組織的に引き起こす特捜検察の問題点を浮き彫りにした。

「転機は、本書で詳細に再現した元厚労事務次官・村木厚子さんの冤罪事件です。特捜検察の証拠改ざんが発覚した史上最大級の不祥事でした。以来、国民は特捜検察の捜査や逮捕・起訴に強い疑念を持つようになったと思います。本書では、マスコミにリークし、大物政治家や高級

官僚に巨悪のレッテルを貼り、世論を味方につけて有罪犯に仕立て上げ、特捜検察の体質を論述しました」

最大の問題は有罪に持ち込むシナリオを逮捕前から作っていることだ。件を再現した場面だ。「特捜検察は捜査・逮捕・起訴・立件とすべて手がけるので、閉鎖組織の自己完結の論理が通ってしまっています。村木事件も証拠データ改ざんが

著者に聞く

●著者 細野祐二さん（会計評論家）

不当逮捕の実体験ベースに 特捜検察の問題点を徹底追及



ほその・ゆうじ 1953年生まれ。KPMG日本およびロンドンで会計監査などに従事後、2004年、キャッツ有価証券報告書虚偽記載事件で逮捕・起訴。有罪確定後、公認会計士登録抹消。現在、細野祐二会計調査事務所として活動。

と細野さんを見る。供述調書にサインを拒否すると長期間拘束される。「最後までサインを拒否した私は、190日間も拘束されました」

最も注力したのは、実名で村木事

件を再現した場面だ。「特捜検察は捜査・逮捕・起訴・立件とすべて手がけるので、閉鎖組織の自己完結の論理が通ってしまっています。村木事件も証拠データ改ざんが

「無罪を信じて献身した妻も裁判中に亡くなりました。一人で部屋にいたら気が変になるから益も正月もなく、会計コンサルタントとして働き続けました。不思議に、土日や年末年始に経営者から相談の電話が入るのです。切羽詰まった相談者に土日はありません。有罪確定して公認会計士資格を剥奪されてから本当の会計士になれたと思っています」

いつしか「困った企業経営者の駆け込み寺」となり、依頼が殺到。英会話教室ジオスの破綻処理で、社員へ賃金を支払うため資産売却に奔走した日々が本書には生き生きと描かれている。その後ジオス傘下の「九段日本語学院」の社長に就任、見事に優良企業に立て直した。

そして、本書執筆の最終局面で飛び込んできた日産自動車のカルロス・ゴーン元CEOの逮捕劇。「証拠改ざん事件から9年。特捜検察の威信をかけた逮捕ですが、有価証券虚偽記載や特別背任で有罪を立証するのは無理筋です。ゴーンさんの弁護士には村木さんの無罪を勝ち取った弘中惇一郎弁護士がついています。ゴーン逮捕は特捜検察にとつて致命傷になると思います」

（聞き手＝浜條元保・編集部）

「読書日記」は月に1度、著者インタビューになります。

会計と犯罪

郵便不正から
日産ゴーン事件まで

細野祐二

「伝説の会計士
が問う」
特捜検察の
体質を徹底追及

「会計と犯罪 郵便不正から日産ゴーン事件まで」(岩波書店 1800円)